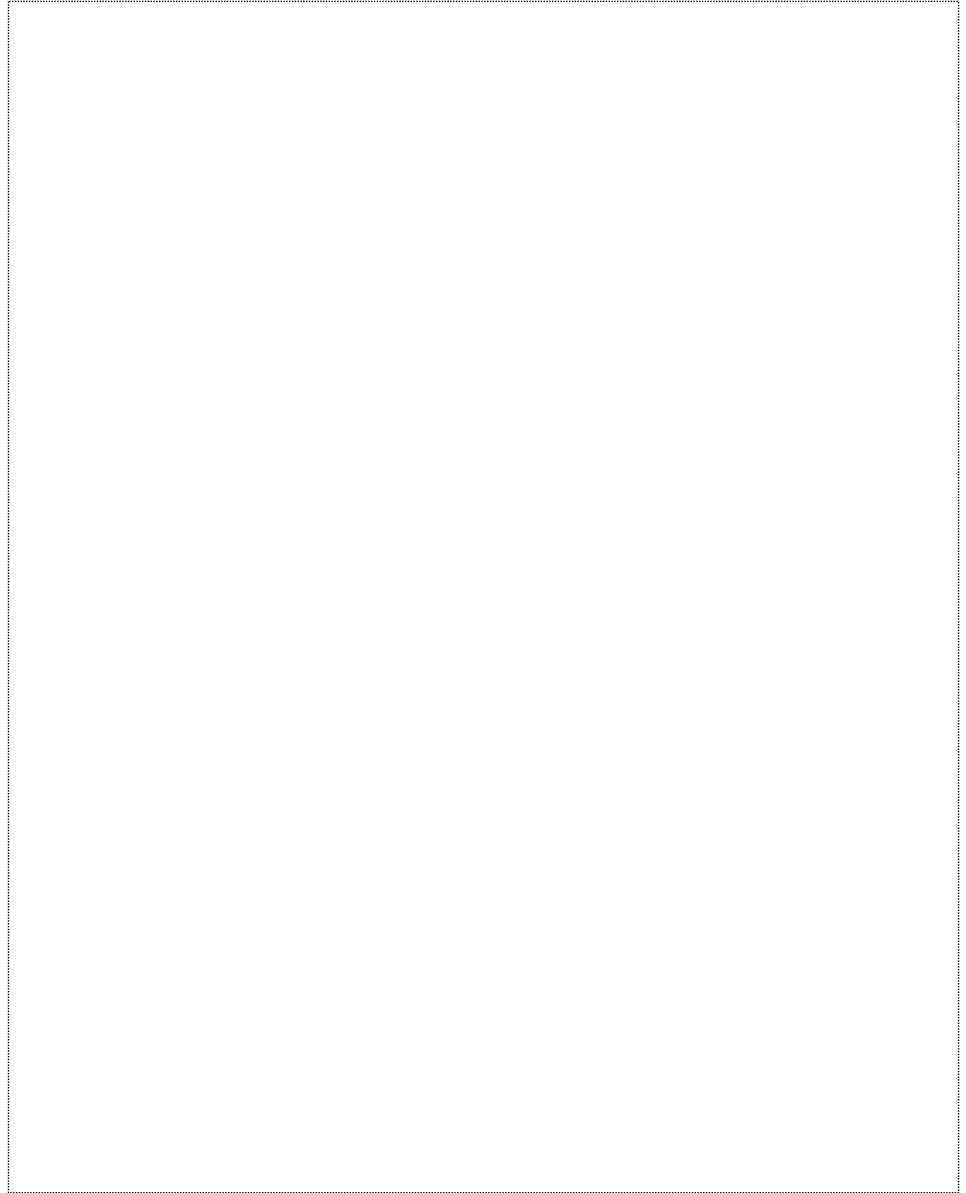


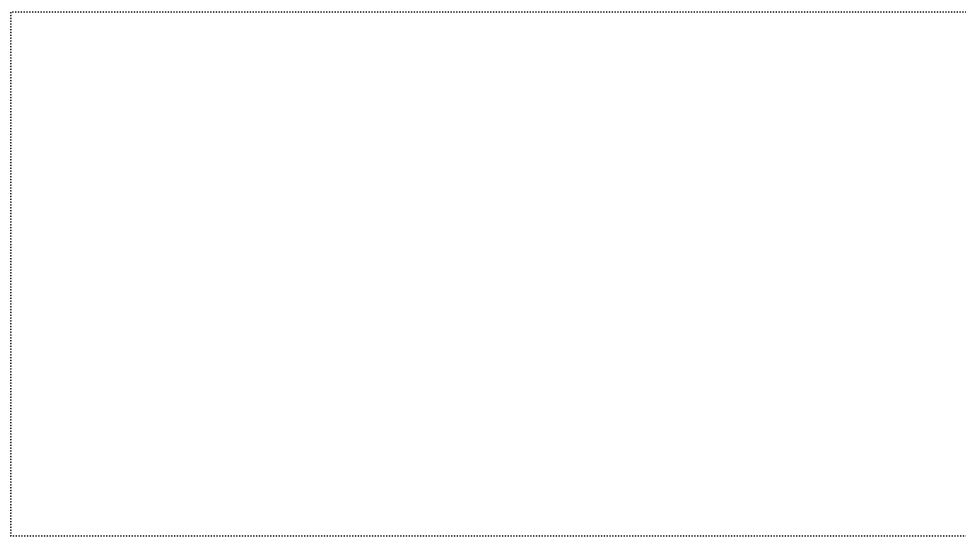
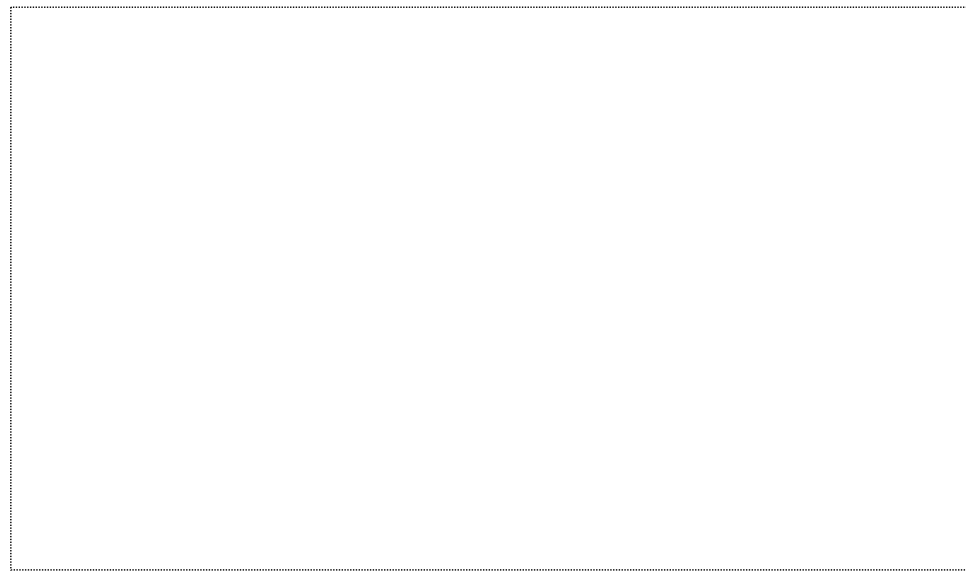
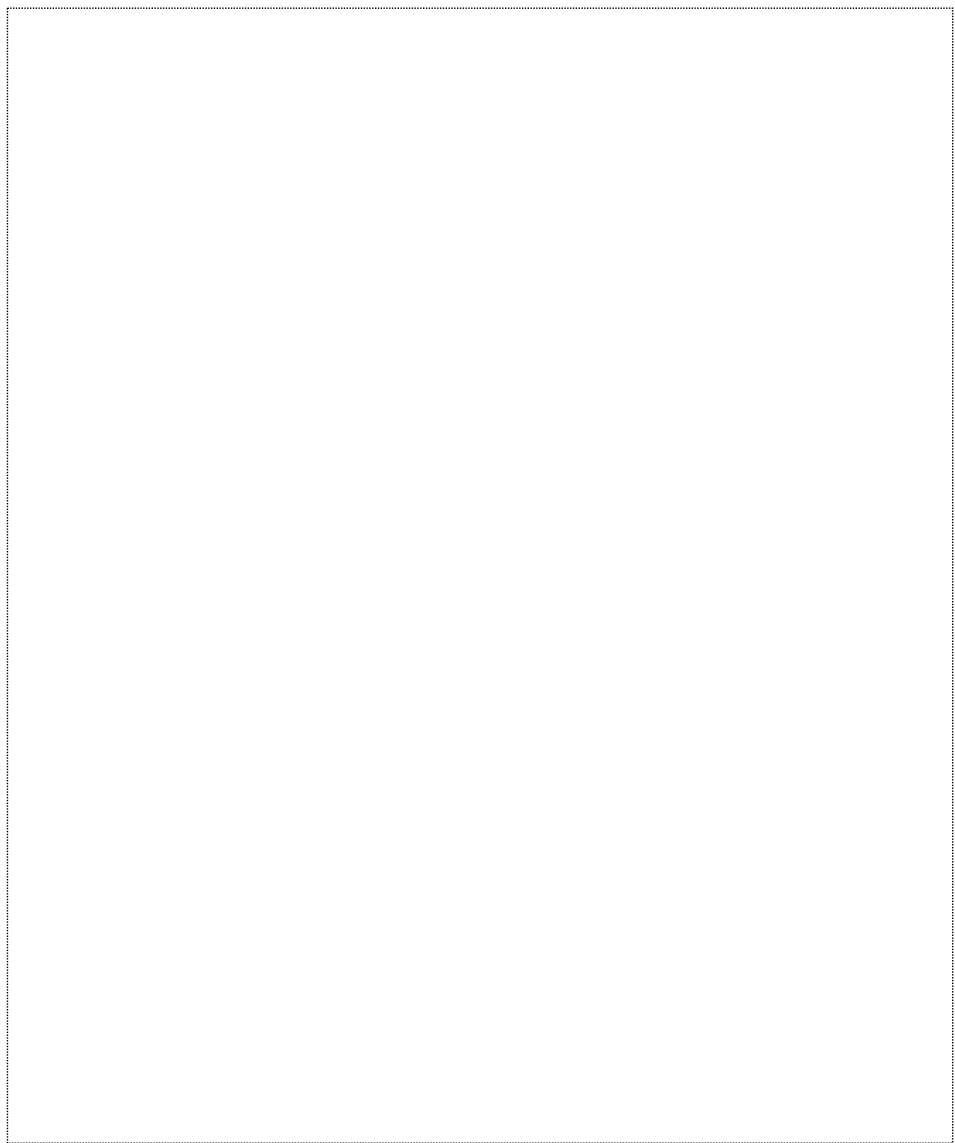
＜路線の属性＞			
都市計画区域名		市町名	
路線番号		計画延長	m
路線名		未整備区間延長	m
計画決定年月日	当初	計画幅員	m
	最終	用途地域	
＜第1段階＞検証対象路線の選定			
指標項目		検証結果	
・未整備区間が有るか			
・幹線街路か			
・当初計画決定から30年以上経過しているか			
＜第2段階＞見直し候補路線の選定			
該当評価項目		概略の内容	
＜第3段階＞見直し対象路線の選定			
指標項目		検証結果	
必要性指標	土地利用、まちづくり、上位計画・関連計画等の観点	・周辺土地利用上の必要性	
		・上位計画における路線の必要性	
		・社会経済情勢から見た必要性	
		・まちづくりの将来像との整合性	
	他事業等との整合性の観点	・面的整備事業等との関連性	
		・交差・接続する他路線との関連性	
		・隣接市町等との整合性	
	道路計画、交通計画上の観点	・ネットワーク上の必要性	
		・アクセス機能、連絡機能の強化上の必要性	
		・交通需要上の必要性	
防災上の観点	・震災時の甚大な被害が想定される地域の防災性の向上の面からの必要性		
	・防災・医療活動の支援の面からの必要性		
空間機能の観点	・都市空間機能の確保の面からの必要性		
その他	・その他		
代替道路の有無	・代替道路がある場合は、その路線の必要性は低いと判断する		
必要性指標のまとめ			

指標項目		検証結果
実現性指標	物理的・地形的な制約の観点	・多大な事業費を要する支障物件等 ・構造上の課題
	歴史的資源の保全の観点	・歴史的・文化的建造物が存在 ・地形的制約の存在
	環境保全の観点	・希少動植物等の存在や生態系への配慮
	街並みやコミュニティの保全の観点	・市街地の空洞化やコミュニティの喪失 ・良好な景観を有する街並みの存在
	その他	・その他
	実現性指標のまとめ	
必要性・実現性評価結果		評価マトリクス
存続路線の選定	必要性が高く、事業の実現に関する課題がない	(該当に )  
A: 廃止対象路線の選定	イ．必要性が低く、事業の実現に関する課題もある ロ．必要性が低く、事業の実現に関する課題がない	
B: 変更対象路線の選定 (必要性は高いが実現性は低い路線)	イ．代替道路の整備が可能 ロ．実現性を阻害する課題解決が可能	
【廃止・変更案の考え方のコメント】		
＜第4段階＞廃止路線と変更路線の判定		
指標項目		検証結果
総合評価(見直し対象路線の上位計画等との整合性の評価)	上位計画・関連計画や各種法令等との整合性	
	道路計画、交通計画との整合性	
	他事業等との整合性・一体性	
	防災・環境面等での整合性	
	その他の観点からの評価	
将来交通需要予測による定量的検討	行う 行わない	結果等： 理由：
【廃止・変更理由等の整理】		

<今回変更案（平面図、断面図、新旧対照図等）>



< 現況（平面図、断面図、写真等） >



＜路線の属性＞				
都市計画区域名	都市計画区域	市町名	市	
路線番号	3.5.4	計画延長	5,600m	
路線名	線	未整備区間延長	3,000m	
計画決定年月日	当初	S25.2.15	計画幅員	16m
	最終	H25.1.5	用途地域	第1種低層住居専用地域
【位置図】				
＜第1段階＞検証対象路線				
線（整備済み区間） 線（未整備区間）		結果		
・未整備区間が有るか ・幹線街路か ・当初計画決定がいつ（経過）				
＜第2段階＞見直し候補路線の選定				
該当評価項目	社会状況の変化の概略の内容			
関連事業の動向変化	関連事業（区画整理）の変更（廃止）			
＜第3段階＞見直し対象路線の選定				
指標項目		検証結果		
必要性指標	土地利用、まちづくり、上位計画・関連計画等の観点	・周辺土地利用上の必要性 ・上位計画における路線の必要性 ・社会経済情勢から見た必要性 ・まちづくりの将来像との整合性	住宅地の幹線道路密度上必要	
	他事業等との整合性の観点	・面的整備事業等との関連性 ・交差・接続する他路線との関連性 ・隣接市町等との整合性	土地区画整理事業が変更（廃止）	
	道路計画、交通計画上の観点	・ネットワーク上の必要性 ・アクセス機能、連絡機能の強化上の必要性 ・交通需要上の必要性	A駅と住宅地を連絡するとともに、A駅前商業地の中心となる路線として必要	
	防災上の観点	・震災時の甚大な被害が想定される地域の防災性の向上の面からの必要性 ・防災・医療活動の支援の面からの必要性		
	空間機能の観点	・都市空間機能の確保の面からの必要性		
	その他	・その他		
	代替道路の有無	有り（W＝14.0m）		
	必要性指標のまとめ	・幹線道路の密度基準及び中心商業地と住宅地の連絡機能を勘案すると必要な路線であるが、隣接して幅員14mの既存1級市道が存在しており、求められる機能を代替することから、その必要性は低いと評価される。		

指標項目		検証結果	
実現性指標	物理的・地形的な制約の観点	・多大な事業費を要する支障物件等 ・構造上の課題	路線上には、既に戸建て住宅が密集して立地している -
	歴史的・文化的建造物が支障	・歴史的・文化的建造物が存在 ・地形的制約の存在	-
	環境保全の観点	・希少な動植物の存在	-
	街並みやコミュニティの保全の観点	・市街地の空洞化やコミュニティの喪失 ・良好な景観を有する街並みの存在	-
	その他	・その他	-
	実現性指標のまとめ		・路線上には、既存戸建て住宅が密集して立地しており、また、関連事業（区画整理）の変更（廃止）により、当該都市計画道路の整備実現性は低い
指標項目		検証結果	
存続路線の選定 A: 廃止対象路線の選定 B: 変更対象路線の選定（必要性は高いが実現性は低い路線）	必要性が高く、事業の実現に関する課題がない □ . 必要性が低く、事業の実現に関する課題が高い <input checked="" type="checkbox"/> . 代替道路の整備が可能 □ . 実現性を阻害する課題解決が可能	（該当に）必要性 低い 高い 課題なし A-I 課題有り A-□ <b>B</b>	
【廃止・変更案の考え方のコメント】			
関連事業等の廃止や高密度に市街化した現状では当該都市計画道路の整備の実現性は低い。一方で隣接する既存の1級市道××線は、当該都市計画道路に求められる機能を代替することが可能である。そのため、当該都市計画道路を廃止対象路線とするが、廃止にあたっては、1級市道××線を都市計画に位置づけるものとする。			
＜第4段階＞廃止路線と変更路線の判定			
指標項目		検証結果	
総合評価（見直し対象路線の上位計画等との整合性の評価）	上位計画・関連計画や各種法令等との整合性	・本路線は、都市計画マスタープランで、中心商業地を支えるとともに、中心商業地と住宅地を連絡する幹線道路として位置づけられているが、代替道路はその機能を十分果たし得ることから、本路線を廃止することは妥当である	
	道路計画、交通計画との整合性	・本路線を廃止し、代替道路に振り替えても、住宅地の標準的な道路密度基準、横断面構成は満たされる	
	他事業等との整合性・一体性	・他事業との不整合は生じない	
	防災・環境面等での整合性	・代替道路で整合性を図ることが可能である	
	その他の観点からの評価		
将来交通需要予測による定量的検討	行う 行わない	結果等： 理由：代替道路は、若干ルートが変わるが、車線数に変化はなく、改めての交通需要予測を行う必要はない	
【見直し路線の廃止・変更理由等の整理】			
都市計画道路3.5.4線は、A駅前の一部は既に整備済みであるが、残りの区間は、戸建て住宅が密集して立地しており、その実現性は相当な困難が想定される。当該路線を含む地区では、かつて土地区画整理事業の計画もあったが、現在廃案となっており、本路線の実現性をさらに困難としている。しかし、本路線に隣接して1級市道線が幅員14mが整備済みであり、現況の求められる機能等を踏まえ、必要最小限の道路幅員が確保できることから、当路線を代替道路とすることにより、都市計画道路3.5.4線を廃止するものとする。			